

令和元年度第3回江別市生涯活躍のまち整備事業地域再生協議会会議録（要点筆記）

日 時：令和元年11月25日（月） 13:30～15:00

場 所：江別市民会館 32号

出席委員：北川裕治会長、岡本収司委員、新田雅子委員、藤本直樹委員、
田原久美子委員、岸本佳廣委員、谷川幸雄委員、大鹿琢委員、
腰原久郎委員、小林徹男委員、赤川和子委員、
栗重理香委員（計12名）

欠席委員：金子正美委員、尾形良子委員、岩村ヒロ子委員（計3名）

事務局：政策推進課堂前課長、毛利主査

その他：株式会社北海道二十一世紀総合研究所 菅原淳氏

傍聴者：なし

会議概要

1 開会

2 議事

（1）生涯活躍のまち形成事業計画素案について

事務局から説明

- ・共生型地域づくりの推進に関する協定書
- ・江別市生涯活躍のまち形成事業計画（素案）
- ・【参考】形成事業計画へのアンケート結果反映ポイント

【質疑】

○北川会長

前回の協議会では計画の枠組みが示されたが、今回の協議会では詳しい内容についての記述が追加されたので、1章ずつ確認を含めて進めたいと思う。

まず、第1章について質問、意見はないか。

○藤本委員

2ページの「3. 関連計画等と本計画との関係」に関連して、市の上位計画や関連計画、アンケート結果や協議会での意見をうまく反映させてコンパクトにまとめていると感じた。

第1回協議会では個別事業の実施者である日本介護事業団が作成した事業計画書が配付され、細かな予定が記載されていた。1年前に作られた事業計画書なので状況や事情の変化から修正を加えている部分もあると思う。この素案に書き込むべきこととは思わないが、どの程度それが反映されているのか教え

ていただきたい。

○事務局

5月末に開催された第1回協議会では、事業者から提出された事業計画を資料として配付した。

形成事業計画については国から示されている記載事項を基本としながらも、一方で事業者の事業内容に反するものであってはならない面がある。なるべく整合は取ってきたが、素案の中で1つひとつ事業計画との突き合わせは行ってない。次回の協議会までに再度精査させていただきたい。

○北川会長

おそらく最初にできた事業計画とイコールになるのではない。実施主体は日本介護事業団やつしま医療福祉グループだが、市民や地元団体と共に実施する取組も記載する必要がある。

他に質問、意見はないか。

○新田委員

1ページの「1. 計画の趣旨・位置付け」の2段落目に「近隣転居型」と「タウン型モデル」と記載されているが、この2つは並列するのか。ある特定の地域が拠点となり、「タウン型モデル」として生涯活躍のまちの中心になると思うが、「近隣転居型」は何を指すのか、重要な部分なので文章を整理する必要があると思う。

○事務局

再度次回までにわかりやすい記載に変更させていただきたい。

○北川会長

次に、第2章について質問、意見はないか。

○大鹿委員

「2. 区域の設定」として、「江別市の全域」という表現があるが、江別駅近辺と大麻地区はあまり人の行き来がないと思う。拠点地域から離れたエリアとの関わりはどのように考えているのか。

○事務局

生涯活躍のまち構想自体は、まず拠点地域の整備を行い、そこから活動範囲を広げていくという考えのもとに策定されている。まずは拠点地域の整備を行い、近隣の住民と拠点地域との交流、自治会や大学、商店街と連携したまちづくりを行いながら、時間を要するとは思いますが全市に広げていきたいと考えている。

○北川会長

3. 1ヘクタールの今回の事業区域だけではなく、当面は大麻地区の大学や商店街などを巻き込みながらまちづくりを行い、将来的にその活動を大麻地区

だけではなく全市に広げたいという考えである。

○田原委員

4ページの「1. 現状」の【地勢】には、「JR駅を起点とするバスによる交通網が充実しており、市内の移動も比較的容易」と記載されているが、交通網は充実しているとは言えない。大麻地区や野幌地区から離れた市街地には商店街がなく、高齢者の比率も高いので、江別駅近辺だけでも整備してほしいという声を聞いている。その点についても考えてほしい。

○北川会長

江別地区については様々なアンケートでも同様の意見をいただいている。今回は高等養護学校の誘致もあり拠点地域が大麻地区に決まったが、全市的に広げることを早急に行ってほしいという意見として受け止める。

○谷川委員

第2回協議会の際に、江別市生涯活躍のまち形成に関する調査結果報告書（アンケート結果報告）が配付された。これには214名の自由意見が記載されているが、その意見はどの部分に反映されているのか。

○事務局

アンケート結果が反映されているポイントについては、今回も参考資料として配付しており、その中でも示しているとおりの自由意見についても間接的に反映している部分もある。

まず、1ページの生きがい就労に着目した中で、拠点地域内で就業される場合の業種などを事業者と相談しながらカフェ、農業、食品の加工や販売といった仕事をしたいという意見が多かったことを踏まえて事業を組み立てていきたいと考えている。

次に、2ページの学習活動では、大学の公開講座やサークル活動への参加などの希望、歩行困難になる老人が減少する健康づくりなどのアイデア、スポーツやトレーニング施設を改善してほしいなどの意見を踏まえて具体的な取組について記載している。

○谷川委員

どのようにアンケートを分析するかは難しい。自由意見では交通に関する問題について約20%以上の人を取りあげている。体は自由に動いても交通機関がないので自由に外出できないといった意見もある。高齢化社会や核家族という現状も踏まえ健康維持のためにも交通網の整理が重要だと思う。札幌市や旭川市のように交通費の割引やフリーパスを活用するなどして交通機関を改善すると、健康づくりや気軽な外出などができるようになるので生活が安定して、「ずっと住みたい、この場で一生を終えたい」という気持ちになる。

○北川会長

アンケートの前段では形成事業計画を策定するための基本的な意向調査を行い、後段では自由意見として形成事業計画に限らず考えを汲み取ったが、その中で交通関係の意見が20%以上あり、反映できないかという意見だった。当市には、高齢者総合計画、地域公共交通網形成計画など各種計画があり、それらはそれぞれ分野別の行政課題に対応していくために策定されている。公共交通に関してはこの計画に反映することは難しいが、重要な意見として受け止め、庁内で意見を共有化する。

○事務局

ご指摘のとおり自由意見の回答では公共交通に関する意見が多いことは認識している。この計画に反映できるかは別として、まちづくりの中では公共交通が大きなテーマなので、公共交通担当者とアンケート結果を共有しながら対応したいと考えている。

○北川会長

次に第3章についてであるが、9ページの「3. 個別の事業・取組内容」は具体的な行動計画についてアンケート結果を踏まえて記載されている。

まず、「(1) 中高年齢者や障がい者の就業、生涯にわたる学習活動への参加その他の社会的活動への参加の推進を図るために行う事業に関する事項」について質問、意見はないか。

○新田委員

「実施主体」が全て同じ文言という説明があった。「②生涯にわたる学習活動や社会的活動への参加」での大学との連携は多岐にわたり、市民向け講座や出前講座などの調整や実施を行っているのは4大学と教育委員会だと思う。このように他団体等を巻き込むのであれば、計画の段階から当事者を入れて調整しなければうまくいかないのではないか。

○北川会長

現在、取組を実施している団体であれば記載しても良いと思うが、新しい取組であれば主体となるべき機関と調整の上で記載することになる。

○事務局

指摘された点を踏まえて書き方を検討する。

○岸本委員

具体的内容では実施主体の話が出ていたが、コーディネーターの関わる分野が非常に多岐にわたっている。江別版「生涯活躍のまち」構想を実現させる上で重要な職務を担うのがコーディネーターだと思うが、これを誰がどのように行うのか。あるいは組織として作るのか。

○事務局

コーディネーターには来年度から様々な部分で地域に入り、地域住民からの声を伺う機能を果たしていただくことになる。来年度の予算でもコーディネーターの位置づけを含めて事業者とも相談をしながら話を進めている。いずれにしても来年度のどこかの時点からコーディネーターとして数名の方に機能を担っていただくことになると考えている。

○北川会長

コーディネーターは重要な人材であり、国の地方創生の支援金も使いながら設置していくことになる。現在は予算前なので次回以降の協議会でコーディネーターについて人数や役割なども言えると思う。

○岡本委員

日本介護事業団はつしま医療福祉グループ内では小さい法人なので、グループ全体でこの取組を支えていくための体制として、10月16日付で開設準備本部を設置した。

コーディネーターの役割は、拠点地域内でのサービスの提供などだけではなく、拠点地域と地域住民の交流の調整など非常に多岐に渡るが、事業者としてはコーディネーター任せにする考えはない。介護サービス、障がい福祉サービス、子育て支援、地域住民との交流などの施設で様々なサービスがあるが、各施設を担当する者を数名ずつ選びプロジェクトチームを作っている。その中で地域交流関係のチームも1つ作っており、グループ内部の人間だけではなく、他に自治会など数名の大塚地区の方に外部のプロジェクトメンバーとして参加していただく。そのプロジェクトチームとしての議論と実際の状況との調整を担う役割のコーディネーターをチームとして来年度までに確保していく。各施設の稼働開始は来年度末から令和3年度になるが、その段階から内部のサポートチームの形や名前を変えながら存続させて、コーディネーターと協力しながら、計画素案に掲げられているような取組を実践していく。オープン段階で全てを一斉に行うことは難しいが、順次できるものから行っていく体制を取るべく動いている。

○北川会長

「(2) 中高年齢者向け住宅に関する事項」、「(3) 保健医療サービス・福祉サービスに関する事項」、「(4) 移住を希望する中高年齢者の来訪および滞在の促進を図るために行う事業に関する事項」、「(5) 子育て支援に関する事項」について質問、意見はないか。

○岸本委員

10ページの「(3) 保健医療サービス・福祉サービスに関する事項」に関連して、施設に関して函館市の事業の行き詰まりが報道されている。江別市は

函館市とは進み方が違うとは思いますがこの件に関する分析はしているのか。

○北川会長

函館市の件は新聞報道などで知っている。生涯活躍のまちの考え方は、まず国が主導して行い、それを全国に広げようとしており、その北海道の第1号が函館市であった。函館市の事業の行き詰まりの理由としては、医療法人が人材を集められず、経営能力が不足していたことが一番大きいと言われている。つしま医療福祉グループの財務状況については、事業者選定の段階で公認会計士と確認をしており、知り得る範囲で事業継続性に問題が認められなかったため選定に至った。全国的に介護人材は不足しているが、つしま医療福祉グループは全国的に事業を展開しているのか。

○岡本委員

北海道内各地と仙台、東京で行っており、仙台はいくつか広がりを見せてきている。

○北川会長

オープンした際の人材不足などの懸念についてはどうなのか。

○岡本委員

全産業を通じて人が足りない時代であり、厳しくないとは言えないが、人材確保の部分では外国人の活用を含めて令和3年度に向けて既に動いている。

○新田委員

本日配付された協定書のタイトルが「共生型地域づくりの推進に関する協定書」であり、「生涯活躍のまちの推進」ではなく「共生型地域づくりの推進」となっている。10ページの「(3) 保健医療サービス・福祉サービスに関する事項」について、「共生型地域づくり」というタイトルで協定を結んで進めていくのであれば、今後展開する方向性を見ると共生型のデイサービスがあると内容が一貫しているように思う。共生型のデイサービスは、縦割りの制度ではなく、障がいや高齢などの制度をまたぐ事業であるが、この(3)の部分において、高齢者の介護事業や障がい者の福祉という枠組みを今後動かす可能性はないのか。

○北川会長

旧札幌盲学校の跡地は6ヘクタールあり、その半分の中でつしま医療福祉グループが今回の施設を作るためにこの計画を策定しているが、北海道の目線では6ヘクタール全てについて、高等養護学校を入れた時に「共生型」としているので、協定書と今回の計画との範囲が違う。

つしま医療福祉グループが「(3) 保健医療サービス・福祉サービスに関する事項」に共生型を入れたいということであれば書くことはできるが、現段階で決断することは難しい。

○岡本委員

当グループで運営している施設のほとんどが介護保険系の施設であり、障がい分野についての経験値が十分ではないと考えている。これまでの経験値も含めて考える時に一足飛びにできるのか。障がい者就労訓練グループホームの運営は初めてなので新しい分野だということを踏まえると控えめに書かせていただいている。

ただし、国も生涯活躍のまち自体は高齢者の施策としてスタートしているが、国の資料を見ると全世代型全員活躍が基本項目に変わっているので、生涯活躍のまち自体が厚生労働省の別の部署で言うところの共生型の取組に重なりつつある。

事業者の受け止め方としては、今の全世代型全員活躍を念頭に置いて、生涯活躍のまちの取組は共生型の地域づくりと同じであると認識してプロジェクトに携わっている。その上で、現状では共生型まで踏みこんで記載することはどうなのか。自然に様々な方が暮らして地域住民と交流することができるようになると共生型サービスも自然にできるようになると考えている。

○北川会長

次に、「(6) 地域住民が生涯にわたり活躍できる魅力ある地域社会の形成を図るために行う事業に関する事項」も含めて質問、意見はないか。

○岸本委員

「(6) 地域住民が生涯にわたり活躍できる魅力ある地域社会の形成を図るために行う事業に関する事項」には市内4大学、商店会、自治会等と記載されているが、大学からは大麻地区の自治会では大麻西町や大麻扇町が一番遠い。この間の交通に関してはどう解決していくのか。これから具体的な話になると思うが、重要な部分なので、それがなければ互いの施設との交流が終わってしまう可能性がある。

次に、11ページの「(4) 移住を希望する中高年齢者の来訪および滞在の促進を図るために行う事業に関する事項」について、サービス付き高齢者向け住宅の対象を50代に下げて条件を緩和する場合、元気な人が住むことになるので、通常のサービス付き高齢者向け住宅と内容が変わらなければ移住できないのではないか。関連して市でも大麻地区で住み替え相談を行っていたが、今住んでいる場所を出た後にいかに利用者に対してフォローをして若い人につなげるのか、移った後の持ち家のフォローという視点も入れた方が良いのではないか。

○北川会長

移住、定住、住み替えは全市的な課題として捉えているので、意識しながら記載していく。また、拠点地域に行くまでの交通面においても現段階では記載

できないが、重要な課題として受け止める。

○藤本委員

岸本委員の話と関連して、この形成事業計画に書き込める内容や書き込むべき守備範囲があると思う。基本計画のような大まかな言葉でしか書けないという役割の計画だと判断している。ただし、どのように具体的に進めていくのかということやどのような細かな事項がまだ課題として積み残っているのか、その課題をどう解決するのかという論点整理は別途必要である。

15ページの「(2) 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容」にも関連して、どのように達成度や進捗状況をチェックし、どう改善するのか。個別具体的なことに関しては別途課題や論点を整理するのか、または、基本計画にぶら下がったアクション計画などのようなもので細部を詰めるのかといった役割分担の記載が計画書の中でも必要であると感じた。大きな方針としての文言の書き方は曖昧な表現になったとしても、書くべきキーワードはあるので、事務局には各意見を汲み取って取捨選択して記載していただきたい。

○北川会長

次に、第4章、第5章について質問、意見はないか。

○田原委員

13ページに記載のあるサービス付き高齢者向け住宅の入居要件は理解できる。しかし、「(2) 生涯活躍のまち形成拠点地域内のサービス付き高齢者向け住宅の入居者についての要件」の国土交通大臣・厚生労働大臣が定める基準には60歳以上や60歳未満と記載されており、入り組んでいて理解できない。

○事務局

国がサービス付き高齢者向け住宅の基準として定めているのは、「60歳以上の者または要介護認定もしくは要支援認定を受けている60歳未満の者」となっているが、江別市の生涯活躍のまちでは50歳以上のアクティブシニアもメインターゲットとしており、拠点地域内のサービス付き高齢者向け住宅に関しては、特例として年齢を下げても対象とするため、このように記載した。(2)では原則論を記載しており、50歳以上という要件緩和はありつつも本来の入居要件に該当する方を優先するよう国から示されているので、それを踏まえた上での年齢要件緩和であることを伝えるための表現であったが、わかりやすい記載の仕方を検討する。

○北川会長

要件緩和をすると50歳代の方で埋まってしまい、本来入居すべき方が入居できない懸念もあるのでその点について配慮すると伝えたかったが、整理して分かりやすく記載してほしい。

○藤本委員

第5章に関して、可能であれば本事業の推進体制が相関図などで表現できると、コーディネーターや、商店街、各大学など各分野の関係者であるステークホルダーの関わり方が位置づけできる。

各大学としても様々な専門家がおり、人材なども含めて協力できる部分について主体的に関わることができるので動きやすくなり、市民などから見ても体制が分かりやすくなる。

○新田委員

第4章の「1. サービス付き高齢者向け住宅の入居要件の特例」について、入居要件を50歳以上にするということには、入居者を一定程度確保して実際に活躍していただくという目的があると思う。しかし、アンケート調査結果として「転居を考えている50歳代のうち、23.5%が高齢者向け共同住宅への転居を希望している」という記載があるが、50代前半で考えると転居を考えているのはほんの数パーセントしかないと思われる。その中の23.5%が高齢者向け共同住宅への転居を希望しているというのは、エビデンスとしては適当ではないと思う。このような書き方ではなく、将来を考えている方が入居できる新しい生涯活躍のまちのイメージを書いた方が良いと思う。50代でサービス付き高齢者向け住宅に入居するというのは新しい提案なので、数字よりも理念で説得的に書いた方が良いと思う。

○北川会長

今後整理させていただく。本日いただいたご意見を踏まえて事務局で形成事業計画素案を調整する。

○各委員

(了)

3 その他

○事務局

次回第4回協議会は1月の開催を予定しているので、再度日程調整をさせていただきます。

4 閉会